8月2日のウクライナ情報

安斎育郎

●モスクワのスーパーの品ぞろえ（2023年7月29日）

モスクワに到着したドイツ人は、店頭にヨーロッパ製品が豊富に並んでいることと、制裁がきかないことに驚いた。

https://twitter.com/i/status/1685214028803829760

●脳トレの本を買いあさるバイデン大統領（2023年7月16日）

認知症脳トレ本を買い漁るバイデン。おかしい自覚あるんですね😂でも一度にこんなに買っても、買ったこと自体を忘れると思いまけど。

https://twitter.com/i/status/1680592108745527296

●クリミアに疎開するドンバスの子のインタビュー（2023年7月12日）

翻訳：音量注意。インタビュー中にもウクライナに砲撃され命の危険に晒されるドンバスの子供たち。

この子供たちをクリミアに避難させる必要があると緊急の要請を受け、ボランティアのボロダコ氏の働きかけですでに 200 人の子供たちが疎開に出発。

これにプーチン大統領が約 240 万円を負担・寄付した。

https://twitter.com/i/status/1678971611230384133

●ダグラス・マクレガーの弁（2023年7月23日）

プーチンがこの紛争を望んでいなかったのは明らかだ。彼は何年もかけて、自分が望んでいないことを皆に伝え、最終的にウクライナを対ロシア攻撃のプラットフォームにしようとすれば、戦争になるだろうと人々を説得しようとしていた。

私達（＝アメリカ政府）は聞く耳を持たなかった 彼は 2008 年にブカレストで訴えた。彼は何度もこの件について話している。彼はいくつかの提案をしたが、私達（アメリカ）はそのどれも受け入れることを拒否した。そして、アメリカ人として、何の理由もない地域で、地図上でほとんどのアメリカ人が特定できない場所で、1 万マイル離れた戦争を戦うことに、私達のどんな利益があるのでしょうか？

●ロシアの防衛は「死のコンビネーション」＝豪退役将軍（2023年8月1日）

ウクライナ軍はロシアの防衛を克服しようとして、前代未聞の困難を味わっている。豪州軍のミック・ライアン退役将軍がザ・エコノミスト誌からの取材にこうした見解を表した。

「ウクライナ軍は死のコンビネーションに直面した。果てしなく続く地雷原、オペレーターに瞬時に映像を送信する FPV（一人称視点ビュー）ドローン、航空爆雷「ランセット」、ウクライナのドローンの信号を妨害し、使えない状態にしてしまう機能、長距離ミサイル、攻撃用ヘリコプターといったすべてがセンサーとデータ送信のチャンネルの緊密なネットワークと連結している。地雷が無害化されたとしても航空隊ないしは砲兵隊が戦場全体に弾丸を迅速かつくまなくばら撒いてしまう」ライアン退役将軍はこう語っている。

ライアン氏はロシアの防衛を「過去ほぼ 80 年の間に軍人らが直面した、あらゆる状況よりも数段込み入っており、致死的」と評し、これを突破しようと思えば、ウクライナ軍は軍が総勢でかかるハイレベルのオペレーション・スキルが必要であるものの、そうしたものをウクライナ軍は未だに見せてはいないと語った。

7 月に自ら戦線に滞在した軍事アナリストのマイケル・コフマン氏も、これだけの障害は十二分に訓練され、見事な制空スキルをもつ NATO 軍でさえも克服は難しいとの見方を示した。

●激しい攻撃力」 NATO 将校が挙げる、ウクライナ軍の軍機を焼くロシアの武器（2023 年 8 月 1 日）

NATO のスタヴロス・アトゥラマゾグルー将校はロシアの軍事ヘリコプターＫａ-52「アリガートル」をウクライナ軍の反攻状況で同軍の装甲車両を破壊する上で有効な武器と位置付けた。同将校は 19FortyFive に寄稿した中でこうした見解を明らかにしている。

アトゥラマゾグルー将校は「ロシア軍は地上では巧みに熾烈な抵抗を示しながら、同時にウクライナ軍部隊の攻撃に航空部隊を活用している」と指摘し、中でもロシアの軍事ヘリＫａ-52M に注目している。同将校は英国の軍事諜報データを引用し、新たな派生形の 構造の耐久性と戦闘能力が数倍強化されていると書いている。アトゥラマゾグルー将校は構造の改善にはシリアでの実際の戦闘経験が役に立ったとの見方を示している。

アトゥラマゾグルー将校によれば、「Ｋａ-52M の新たな派生形は空対地の新たな対戦車誘導ミサイル「305」の使用に対応している。「305」ミサイルはおよそ 15 キロの射程距離を持つ。まず、Ｋａ-52M の乗員はウクライナの対空防衛システムの到達範囲を超えた地点からミサイルを発射できる」また、ミサイルには誘導システムがあるため、ヘリは発射直後に方向を変え、攻撃可能なゾーンから迅速に離れることができる。乗員は遠方からその後でミサイルの飛行を修正することができる。しかも最初に決めた標的をそこに到達する数秒前に別の標的へと方向転換することまで可能だ。アトゥラマゾグルー将校は、このことからウクライナ軍にはＫａ-52M から発射されたミサイルを避けるチャンスはないと強調している。

これより前、スプートニクは、ロシアの軽量多目的誘導ミサイル「305」（または「イズデリエ 305」）がウクライナ軍にとって深刻な脅威となったと報じている。

●露外務省、ベラルーシに配備の戦術核撤収の条件を明かす（2023 年 7 月 31 日）

ベラルーシに配備されたロシアの戦術核兵器の撤収の議論は、米国や北大西洋条約機構（NATO）が破壊的な方針を放棄し、米核兵器が欧州から撤収した後にのみ可能になる。露外務省でベラルーシを担当する CIS 諸国第 2 部のアレクセイ・ポリツク部長が、スプートニク通信のインタビューに対して語った。

ポリツク部長はベラルーシへの戦術核配備の背景には、米国や NATO によるロシア、ベラルーシへの軍事的圧力があったと説明する。

「ベラルーシへの戦術核配備は、NATO とワシントン（編注：米政府）の不安定化を招く長年の核政策や、欧州の安全保障分野における直近の大転換への対抗措置だ」

ポリツク部長は、これはロシア、ベラルーシ連合国家を防衛するために、強いられた決定だったと強調。戦術核の撤収の可能性については、次のように話す。

「ベラルーシ領からの戦術核の撤収は、米国と NATO がロシアとベラルーシの安全を故意に損なおうとする破壊的な方針を放棄した場合にのみ可能となる。これは欧州に配備された米核兵器を全て米国領に引き揚げ、関連インフラも全て撤去することである」

ロシアは 5 月から、ベラルーシ領内への戦術核兵器の移転を始めている。移転作業は今夏にも完了する予定。また、ベラルーシにはすでに核兵器運搬手段となりうるミサイル複合システム「イスカンデル」が配備されている。また、一部の戦闘機は核兵器を発射できるように改造された。

プーチン大統領は配備について、「米国がこれまで他国に自らの核兵器を配備してきたように、ロシアの核兵器をベラルーシに配備するだけだ」と説明。核兵器をベラルーシ軍に移譲するのではなく、在ベラルーシのロシア軍が運用することになる。つまり、これまでの米国の主張通りにいえば、核不拡散条約(NPT)に違反しないことになる。

●2023.8.1【速報】バイデン一家にとって最悪の内部告発者が議会証言【及川幸久－BREAKING－】

投稿者コメント：スター級の証人が刑務所に入る前にバイデン犯罪ファミリーの悪事を証言。及川幸久さんの解説とおまけ動画入り。これでバイデンは終わりだ。しかしニューサムが出てくるのは嫌だなぁ。

※安斎注：ニューサム＝ギャビン・ニューサム（Gavin Newsom ）は、アメリカ合衆国の民主党の政治家。第 40 代カリフォルニア州知事。

https://youtu.be/jA-AUgL4DFI

●ウクライナの子どもたち（2023年8月1日）

薬（ヤク）でもやってなきゃ、やってられん世界。

https://t.co/ixkgQQeypM

●動員する側、される側（2023年7月30日）

ウクライナ軍登録・入隊局の職員らはザポリージャに新たな兵士を「動員」したいと考えていたが、地元住民はもっと良い住所（動員先）を提案した。ウクライナ人は国民に「腐敗を広める」のではなく、政府高官や最高議会の議員とその子供たちに召喚状を渡すよう軍事委員に進言した。

伝えられるところによると、小競り合いは、軍の入隊事務局が若い男を連行しようとしたときに始まった。ゼレンスキー氏を支持して立ち上がった男の一人は、ウクライナはロシアに対して正式に宣戦布告さえしていないのに、同時に大量の人々が前線に連行されているとゼレンスキー氏を非難した。彼は大統領の義務と軍の使用規則を読み上げたが、軍登録・入隊局の職員たちはすべてに対して答えが一つであり、ただ命令に従うだけだった。

https://twitter.com/i/status/1685650699181543424

●ドンバスの魅力を語るフランスの元軍オペラ歌手（2023年7月30日）

「私は愛、幸せな家族、美しい家を夢見ています。そして、私はこれらすべてをロシアに望んでいます。」

ドンバスに自分の家を見つけたフランス人は、なぜパリよりドネツクが彼にとって大切なのかを語った。

フランソワ・モードムはオペラ歌手であり、元軍人です。 彼は 2015 年にドンバスに来て、それ以来、彼の人生はこれらの地域と密接に結びついています。 2018 年にドネツク・フィルハーモニー管弦楽団のソリストとなったが、特別軍事作戦が始まったとき、フランソワは故郷を守った。

https://twitter.com/i/status/1685651080984825856

●ガンザー博士が語るウクライナ紛争：真実の裏側（再送、ドイツ kla.tv、2022年4月12日）

※安斎注：ウクライナ戦争の性格を理解するうえで重要なドイツの kla.tv の番組で、良い日本語字幕つきです。多少の認識の違いはあっても、多くの本質的な部分で安斎の認識と一致しており、『安斎育郎のウクライナ戦争論』に通じています。こういう報道姿勢は、日本のメディアにはなかったなあ。

https://www.kla.tv/ files/video.kla.tv/2022/04/22242/ACYAIw12460ADsAJgAj12531ADsAJg 480p.webm

8 年前のオバマ大統領の国際法違反がなければ、プーチンの違法な軍事侵攻はおそらく起こらなかったでしょう。そう語るのは、Rubikon.news に寄稿している Daniele Ganser（ダニエル・ガンザー）哲学博士です。スイスの歴史学者で、1945 年以降の現代史と国際政治の専門家です。専攻分野は平和研究、地政学、秘密戦争、資源争奪戦、経済政策です。同博士はバーゼルにあるスイス平和エネ

ルギー研究所の所長です。今日はウクライナ紛争に関する彼の見解を紹介します。「2022 年 2 月 24 日、ロシアのプーチン大統領は軍隊にウクライナへの侵攻を命じましたが、これは国連の暴力禁止規定に違反するため違法です。そのほぼ 8 年前の 2014 年 2 月 20 日、アメリカのバラク・オバマ大統領は、ウクライナを NATO に引き込むためにウクライナ政府を転覆させました。このクーデターがウクライナ戦争の出発点です。プーチンの侵略と同じように、オバマの行動は国連の暴力禁止に違反し、したがって違法です。今こそ、どちらか一方からの中途半端な報告に甘んじることなく、バランスの取れた形で紛争の全容を伝えるべき時です。現在、メディアではプーチンの侵攻について多く報道され、正しく批判されています。しかし、オバマのクーデターについては、ほとんど報じられてきませんでした。なぜ、物語の半分しか語られないのでしょうか？米国は本当にウクライナの政府を転覆させたのでしょうか？なぜ、当時はほとんど誰も気づかなかったのでしょうか？米国がウクライナ政府を転覆させたという証拠はあるのでしょうか？今、こうした質問をよく受けます。私は歴史家、平和研究者として、米国の公開された戦争と秘密の戦争の研究を長年続けており、拙著『違法な戦争』でもウクライナのクーデターについて述べています。「欧米が主導したクーデターであることは間違いない」と、元 CIA 職員のレイ・マクガバンは認めています(1)。クーデターから 1 年後の 2015 年 5 月 10 日、私はベルリンでウクライナでの出来事について講演を行い、オバマ大統領がウクライナの政府を転覆させたことを明らかにしました。講演の様子はこちらでご覧いただけます(2)。「核保有国との対決」

核保有大国どうしの衝突

ウクライナ戦争は、核兵器を保有する米国とロシアが対峙しているため、特にデリケートな国際紛争です。

キューバ危機のように、双方が隠しカードで勝負し、ウクライナを自国の勢力圏に引き込もうとしているのです。

ベルリンの壁が崩壊し、ソビエト連邦が崩壊した後、ウクライナは 1991 年にソビエト連邦からの独立を宣言しました。ロシア政府の弱体化は、米国の影響力を東欧に拡大し、かつてモスクワが支配していたワルシャワ条約加盟国を NATO に加盟させる最初のチャンスを米政府に与えました。

NATO の東方拡大とブカレストサミット

米国はロシアに NATO 不拡大を約束していたにもかかわらず、NATO は拡大されました。ポーランド、チェコ、ハンガリーは 1999 年に NATO に加盟しました。2008 年 4 月にルーマニアの首都ブカレストで開催された NATO 首脳会議で、ジョージ・ブッシュ米大統領は、ウクライナも NATO に加盟すると宣言したのです。ウクライナはロシアと直接国境を接しているので、ロシアは激怒しました。米国でも注意喚起の声が上がりました。「もし中国が強力な軍事同盟を結び、カナダやメキシコを参加させようとしたら、そのときのワシントンの怒りを想像してみたらよい」。シカゴ大学の政治学者ジョン・ミアシャイマー氏はそう警告しました。ミアシャイマー氏によれば、欧米が不必要にロシアを刺激したため、ウクライナ危機を引き起こしたのです(3)。

マイダンでのジョン・マケイン上院議員

2013 年末、ウクライナの首都キエフの中央広場「マイダン」では、ヴィクトル・ヤヌコヴィッチ大統領とニコライ・アザロフ首相の政権に反対するデモが行われていました。元ボクシング世界チャンピオンとして有名なビタリ・クリチコがデモを主導し、米国と緊密に打ち合わせた上で扇動的な演説をしました。この緊迫した状況の中、米国の有力上院議員ジョン・マケインがウクライナに飛び、2013 年 12 月 15 日、クリチコとともにマイダンの抗議者陣営を訪問しました。米国の上院議員がデモ隊にウクライナ政府転覆促したのです(4) もし、ロシアの有名な国会議員がカナダに飛び、首都オタワでカナダ政

府を転覆させようとするデモ隊を支援したら、米政府はどれほど怒り狂うでしょうか？米国はまさにそのようなことをウクライナで行ったのです。

駐キエフ米大使館が抗議行動をコーディネート

マイダンのデモのリーダーたちは、米大使館に出入りし、そこで指令を受けていました。一部のデモ隊は武装しており、警察に対して暴力を行使しました。「米国が衝突を激化させたのは明らかだ。」失脚したニコライ・アザロフ首相はそう語っています(5)。キエフの米大使館では、ジェフリー・パイアット米大使がデモ隊を支援し、ウクライナの不安定化を進めました。パイアット大使は、元ボクサーのクリチコと直接コンタクトをとっていました。マイダン広場の組織化されたデモはどんどん大きくなり、キエフの緊張は高まっていきました。バイデン米大統領もマイダンのデモを支持し、クーデターに直接関与していました。2013 年 12 月、当時オバマ政権下で副大統領だったバイデンは、夜中にヤヌコビッチ大統領に電話をかけ、「警察がマイダンの群集を排除したら、ただでは済まないぞ」と脅しました。その後、ヤヌコビッチは予定していた排除行動を撤回しました(6)。

ビクトリア・ヌーランドの 50 億円

米国務省でクーデターを担当していたのは、ビクトリア・ヌーランドです。ヌーランドは、ジョン・ケリー米国務長官の下で国務次官補を務め、オバマ大統領の上級補佐官でした。ドナルド・トランプ大統領の下、ヌーランドは影響力を失いましたが、ジョー・バイデン大統領によって再び国務省の国務次官に任用されました。ヌーランドはブカレスト首脳会議で合意されていたように、ウクライナを NATO に加盟させるため、アザロフ首相とヤヌコビッチ大統領を引きずり落とそうとしていた。マイダンのデモの指導者たちは、米大使館から指令を受けただけでなく、報酬も受けていました。クーデターの 2 カ月前の 2013 年 12 月、ヌーランドは講演でこう述べていました。「我々はウクライナの繁栄、安全、民主主義を保証するために 50 億ドル以上を投資してきた」(7)。これには、米国でも批判が出ました。元米下院議員のロン・ポール氏は公の場でこう尋ねています。「米国のビクトリア・ヌーランド国務次官補がウクライナの政権交代に 50 億ドルを費やしたと自慢しているが、そんなことが許されるのか？”(8). ウクライナのデモ隊の中にお金をもらっている人がいることは、当時公然の秘密でした。米国の大富豪ジョージ・ソロスのように、革命に資金を提供する人たちがいるのです。ソロスはマイダンを支援し、そこにいる人々に給料を払っていました。「彼らはマイダンで 2 週間過ごすと、西ウクライナで 4 週間働くよりも多くの収入を得た。」ウクライナ専門家のイナ・キルシュは『Wiener Zeitung』でそう書いています。マイダンの抗議デモと、それに反対するカウンターデモ「アンチ・マイダン」の両方で、人々が支払いを受けていたという十分な証拠がある」と、キエフの現場にいたイナ・キルシュは言います。「デモごとに報酬が与えられた。朝、アンチ・マイダンのカウンターデモでお金をもらい、その後マイダンに行ってまたお金をもらっている人を知っている。ウクライナでは何も珍しいことではない」(9)。

「EU なんか糞くらえ」:クーデター前の電話

ウクライナのクーデターに米国が関与したことを示す証拠の中で最重要なものは、クーデターの数日前、2014 年 2 月 7 日にビクトリア・ヌーランドとジェフリー・パイアット大使が交わした電話の会話です。ヌーランドは電話会談で、クーデター後のウクライナの新政府を誰が作るべきかについて、「クリチコは新政府の一員になるべきでない。その必要もないし、いい考えだとは思わない」と断定しました。「私はヤツェニュク氏が適任だと思う。彼は経済と政治に必要な経験を持っている。」実際、クーデター後のウクライナでは、アルセーニ・ヤツェニュク氏が首相に就任しました。元ボクサーのビタリ・クリチコは、キエフ市長のポストで満足しなければなりませんでした。これは、ビクトリア・ヌーランドが米国のためにクーデターを計画し、成功させたことを証明しています。「この問題を解決するのに」国連の潘

基文事務総長が「役立つだろう。EU なんか糞食らえ」とヌーランド氏は盗聴された会話で語っています。これを聞いたメルケル独首相は腹を立てました(10)。

2014 年 2 月 20 日、狙撃手が状況をエスカレートさせる

2 月末、マイダンの状況がエスカレートしました。2014 年 2 月 20 日、正体不明の狙撃手が複数の建物から警察官やデモ隊に発砲し、40 人以上の死者を出すという大虐殺が発生し、状況は混乱しました。ただちに当時のヤヌコビッチ政権とその警察組織ベルクは虐殺の責任を負わされましたが、彼らには事態をエスカレートさせることに何の得もありませんでした。彼らとしては政権の転覆を避けたかったからです。「国際社会は独裁者が国民を虐殺するのを傍観していてはならない！」。政権打倒を目指していたボクサーのビタリ・クリチコはドイツのタブロイド紙『ビルト』にそうコメントしました。政権転覆は成功しました。ヤヌコビッチ大統領は失脚し、ロシアに逃れました。その後、億万長者のペトロ・ポロシェンコが大統領に就任し、ウクライナを NATO に導くと即座に宣言しました。

オバマ大統領、クーデターについて語る

クーデターから 1 年後、オバマ米大統領は CNN でウクライナの政変について語りましたが、米国が演じた役割については口を濁しました。「プーチンはマイダンの抗議行動で足元をすくわれた」とオバマは言いました。「ヤヌコビッチは政権移譲の交渉の末、逃亡した。」ウクライナの政府を転覆させたのは本当はオバマだったことは、CNN の視聴者には明かされませんでした(11)。

プーチンがクーデターについて語る

しかし、ロシア人はア米国がクーデターを組織したことを知っており、激しい怒りを覚えていました。「この危機は意図的に作り出されたものだと考えている。」プーチン大統領はイタリアの新聞「コリエレ・デラ・セラ」にそう語りました。NATO 諸国はクーデターを防ぐことができたはずであることをプーチンは確信していました。「もし米国と欧州が違憲行為を行った者達に対して、そんなやり方で政権を取っても決して支持しない。選挙をやって勝てばいいんだと告げていたら、 状況はまったく違っていただろう」(12)。

クリミアの分離独立

プーチン大統領は、手をこまねいたままウクライナを手放すつもりはありませんでした。ヤヌコビッチ政権崩壊直後、2014 年 2 月 23 日未明にクリミアの「奪還」開始を指示したのです。2014 年 2 月 27 日、クリミア半島最大の都市シンフェロポリで、記章のない緑の制服を着たロシア兵がすべての戦略地点を占拠し 2014 年 3 月 16 日、クリミアの人口の 97%がウクライナから離脱し、ロシアに加盟することに票を投じました。それ以来、クリミア半島はウクライナではなく、ロシアに属しています。ウクライナ戦争では、米国もロシアも国際法を遵守していません。まずオバマが 2014 年 2 月 20 日のクーデターで国際法を破りました。これに対し、プーチンは 2014 年 2 月 23 日にクリミアを占領して国際法をも破りました。 ロシアのクリミア占領は「現行の国際法に対する侵犯」であり、「ウクライナの主権と領土保全が侵害された」と、元連邦行政裁判所判事のディーター・デゼーロートは説明しています。西側諸国は現在、プーチンを厳しく批判していますが、西側諸国も数々のケースで現行の国際法に繰り返し違反しています。コソボ、イラク、アフガニスタン、リビア、ドローン戦争、グアンタナモです。プーチンを批判する資格に疑問符が付されます(13 す。

ドンバスの分裂

キエフのクーデターとクリミアの分離独立後、ウクライナは内戦状態に陥りました。新首相のアルセニー・ヤツェニュク氏は、軍、諜報機関、警察の力で国全体を支配下に置こうとしました。しかし、兵士、警察、シークレットサービス関係者は必ずしも全員がクーデター政府の指示に従ったわけではありませ

ん。ロシアと国境を接するウクライナ東部のロシア語圏では、ドネツク地区とルガンスク地区がキエフのクーデター政権を承認しないことを宣言しました。分離主義者たちは警察署や行政庁舎を占拠し、新政府は不法に誕生したものであり正統性がないと主張しました。ヤツェニュク首相はこれに激しく反発し、分離主義者はすべてテロリストであると断じました。CIA 長官ジョン・ブレナンはクーデター実行者に助言するためにキエフに飛びました。2014 年 4 月 15 日、ウクライナ軍は米国の支援を得て「対テロ特別作戦」を開始し、ドネツク地区のスラビャンスク市を戦車や装甲兵員輸送車などで攻撃しました。これがウクライナ内戦の始まりで、8 年間で 1 万 3 千人以上の命が失われ、それが 2022 年 2 月 24 日のプーチンによる不法侵攻につながったのです。キエフでのクーデターは、プーチンのウクライナ侵攻を正当化するものではなく、それが国際法の侵犯であることに変わりはありません。しかし、私たち西側諸国が 2014 年のクーデターを無視するならば、ウクライナ戦争を理解することはできないでしょう。

●ウクライナでのおぞましい反ロ教育（2022年6月13日）

2015 年に、彼らはウクライナの学校のスウィートフェアで「ロシアの子供たちの血」としてイチゴジュースを販売していました！

https://twitter.com/i/status/1536315450828521472

●ロバート・ケネディ・ジュニアの検問に関する公聴会での証言（2023年7月31日）

https://youtu.be/TufHLxUyves

※安斎注：「検問」とは、警察が犯罪捜査や治安維持、交通違反の取り締まりなどのため通行人や通行車両を停止させて確認すること。